

平成19年9月20日

淀川水系流域委員会 様

西出 正敏

川上ダムの本体工事早期着工と本川堤防の早期閉め切りについて

私は小田地区で4町歩の田を耕作している専業農家で、その8割の田は遊水地に位置しています。農繁期には家族総出で汗をながし、お昼に周囲堤防の上にブルーシートを敷き4人の孫ともども昼食をとり一息つき今の幸せを感じています。

28年災害については多くの方から、その惨状を語られていますので皆さんご承知のとおりですが私は小学5年生だったので、その痛ましい悲しい出来事が今も脳裏にはっきりと刻まれています。そんな中で一番の思い出は約3ヶ月間、電気がつかず暗やみの、いわゆる<つし>で過ごしたことで大人になったら電力会社に勤め地域の皆さんに不安な日々をおくらせないよう明るい安心して生活できるよう自分がやらなければと決意した事です。

その後、国交省、三重県、市など精力的に復興と再発防止策を推進され、また地元も理解と協力をし、遊水地設定、周囲堤の造成と強化、本線堤防の嵩上げと強化など私たちの見えるところでの治水対策についてピッチは遅いながら着実に進行しその効果は表れていると考えます。例えば、伊勢湾台風、第2室戸台風含め大雨の事象はいく度もあり、小田町でも避難した事も何度もあり、遊水地の田畑が冠水するのは1年に6回も稲穂が見えなかった年もありましたが、人、家がながされるという事がなくなり治水対策全体が信用できさらに一層の推進をお願いしたい。

私達の見えないところでの治水対策として、川上ダムについて当該地域の皆様には関係のない下流部地域の被害軽減のために英断をもって、ご協力頂いています事を厚くお礼申し上げます。

この川上ダム建設と遊水地周辺整備については一体で推進してこそ木津川上流地域の治水対策が出来るものと考えます。小田地区含め、各遊水地区の本線堤防の閉め切りと川上ダムの本体工事の早期着工を強く求め意見とします。

以上